

北海道大学大学院情報科学研究科 社会人博士制度へのお誘い

産業界でご活躍の研究者・技術者の皆さん、就職して実際に働いてみて、「大学時代にもっと深く勉強しておけばよかった」とか、「いろいろな知識や専門性をもっと広く身につけておけばよかった」と思うことはありませんか。実際にアンケートをとってみると、多くの社会人が何らかの形で「学び直し」に意欲を持っていることが明らかになっています。学生の頃は、講義や実験で学んでいることが社会とどのように繋がっているかを具体的にイメージしづらかったため、どちらかと言えば受け身の姿勢で授業を聞いていたという人も多いのではないのでしょうか。しかし、学んだことが実社会でどのように使われ、どのように役立っているのかを知ることで、「もう一度きちっと学び直したい」という気持ちが湧き出てくるのかも知れません。また、現代社会においては、学生時代に学んだ知識・技術では対応しきれないような、新しく複雑な課題も多数出現してきています。皆さんは、恐らくそうした課題にどのように向き合えばよいかについて、それぞれの職場で日々、奮闘努力されているのではないのでしょうか。そして、「国内外で課題解決のためにどのような研究が進んでいるのだろうか」→「解決の糸口になる新しい方法はないのだろうか」→「あの先生だったら何か良いアイデアを授けてくれるかもしれない」→「もう一度大学で学びたい」と言うモチベーションへと繋がっていくのだらうと思います。このように大学は、大学を卒業した社会人の皆さんにも広く門戸を開き、大学の持つ知識・財産を生涯にわたって有効に活用していただけるような環境を整えています。

北海道大学大学院情報科学研究科においても、「社会人の学び直し」に対するニーズに応えるために、「在職のまま」、博士課程で学ぶことができる制度（社会人博士制度）を設けています。「在職のまま」学ぶことができるのは、4科目の特論講義をe-ラーニングにより自宅から講義ビデオを閲覧して履修できるようになっていることと、年間のべ3週間程度来学して指導教員から研究指導等を受けていただければ履修の要件を満たすことができるようになっているからです。また、長期履修制度を活用して、計画的に4～6年間での修了を目指すことも可能です。

さて、最近の情報技術の発展はめざましいものがあります。コンピュータ将棋、質問応答、会話ロボット、等の例にあるように、コンピュータが大規模なビッグデータから機械学習、深層学習、最適化技術などのツールを用いて学習することによって、その知識処理能力が人の能力を超え始めています。こうした情報技術を農業、工業、医療、防災、エネルギー等の他分野と組み合わせることで、新しいイノベーションや価値が生み出され、産業構造あるいは就業構造が大きく変わっていく時代を迎えつつあります。本研究科はまさにその最先端の分野を教育研究していると言っても過言ではありません。実社会における皆さんの課題を、私たちと共に考え最適な解決策を見出してゆきましょう。そして社会における皆さんの経験を現役の学生諸君にも是非伝えていただけるとありがたいです。

平成30年4月

北海道大学大学院情報科学研究科長 教授 北 裕 幸
連絡先：〒060-0814 札幌市北区北14条西9丁目
北海道大学大学院情報科学研究科事務課教務担当
電話 (011) 706-6946, 7596